

学校長便り

～学校や地域に誇りをもつ児童の育成～

アンケート結果報告について

九度山小学校 令和6年2月2日



今年度の学校の取組について、12月に保護者アンケートを実施しました。78家庭中60家庭より回答いただきました。その結果を報告いたします。
一昨年度からの経年比較と今年度のグラフを合わせて載せています。

【「そう思う」「まあそう思う」と肯定的な回答が高い(95%以上)項目】

1. 学校は、学校長だより、学年だより、HP等を通じ、教育内容や教育活動を保護者や地域の方にわかりやすく伝えている。
2. 学校は、授業参観・懇談会や学校行事等、保護者が学校や子どもの様子を参観できる機会をよく設けている。
4. 学校は、適度な宿題を与え、家庭学習の習慣づけを図ろうとしている。
10. 学校は、子どもの安全確保・健康管理のための取り組みを行っている。
12. 学校は、ゲストティーチャーによる授業や校外での体験活動の取り組みを行っている。
13. 学校は、学校行事や児童会活動などで異学年縦割り活動の取り組みを行っている。
16. 子どもは、楽しそうに学校へ通っている。

【反対に他の項目に比べて低い(80%未満)項目】

6. 子どもが、学習や生活について、先生に相談できる学校になっている。68%(R4)→78%(R5)
8. 学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。

昨年度の結果と比較しますと、他の項目に比べて低い項目「14. 学校給食は、子どもの成長に応じた量や内容を提供している。」「17. 子どもは、学習がわかり、基礎的な学力が身についている。」は少し高くなっています。学校給食に関しては、今年度給食試食会を実施し、よりご理解いただけただけではないかと思えます。給食センターには、日頃から給食の量や苦手な食材をおいしく食べられるよう工夫していただいておりますが、引き続き、栄養士と協力し、学校での食育の推進に努めます。また、「18. 子どもは、学校のことをよく話す。」は、肯定的な回答が増えましたが、そうでない回答もあり、肯定的な回答の割合だけで単純には判断できないとも言えます。肯定的な回答が他の項目に比べて低い項目については、さらなる改善と取組に努めます。

学校では、担任以外にも、支援教員、養護、その他の職員、SC、SSWなど、多くの教職員が児童と関わり、児童の気になる様子や行動を共有し、いろいろな立場で児童を見守っています。児童が、誰にでも気軽に相談しやすい環境を整えていくとともに、保護者の方が、学校生活の様子についてよりわかっていたらよい、連絡を密にしていきたいと思います。また、気になることや聞きたいことがございましたら、いつでも学校にご相談いただけますようお願いいたします。また、「わからない」と回答を多くいただいた項目については、本校の教育方針についてご理解いただけますよう、情報を発信し取り組んでいきます。

コメント欄には、学習指導や生徒指導等への理解や励ましのお言葉、また、ご意見・ご要望等をいただきありがとうございました。一部紹介させていただきます。なお、いただいたご意見等については、プライベートに関する事等の理由により、一部を要約したり、差し控えたりしています。ご了解いただくとともに、ご不明なことがありましたら学校へご連絡くださいますようお願いいたします。

- ・いつもありがとうございます。字をきれいに書けるようになり、学力も身につけてきていると思います。
- ・学習面では、どの学年も大変お世話になっており、手厚くご指導いただけ、とてもありがたいです。
- ・学習や学校生活だけでなく、心の様子も見てくださり、感謝しています。
- ・何かあれば担任の先生から連絡や声をかけていただいております。いろいろ報告していただき、とてもありがたく思っています。
- ・担任の先生たちには、とてもよくしてもらっています。叱るときにはきちんと叱ってくれているので、安心して通わせることができます。子どもが悩んでいた時は、担任の先生が対応してくださり、次の日は、何事もなかったように学校に行けました。とても感謝しています。
- ・クラスでまわす家庭学習(自主勉強)の取組がすばらしいと思いました。皆が見ると思うと字がきれいで工夫しています。どんな風に他の子が取り組んでいるのかもわかりとても良いです。
- ・いつもありがとうございます。家での様子を見ていると、学校でも楽しくやっているんだろうなと思います。学校でのことは、私が問いかけると話をしてくれます。すごく楽しいことや発見・新しいことがあった時は、自分から進んで話をしてくれます。放課後電話をいただくこともあり、本当にありがとうございます。
- ・子どもたちのことをよくみてくださっているので、いつも本当に感謝しております。毎日楽しく学校に通っています。「学校、楽しい」とよく言っています。これからも子どもたちにとって「楽しい学校」であってほしいです。

学校行事について

- ・1月に行われるマラソンについて、行事として児童生徒が全員参加になっていますが、様々な子どもがいます。昔は全員参加の学校も昨今自由参加にするなど選べるようになった学校もあるそうです。九度山小学校でも児童一人一人が選べるようにしてほしいです。

□九度山世界遺産マラソンは、今年で16回目となります。九度山町内の小中学校は、九度山町の社会体育の振興に努め、学校行事となっています。今年は、雨天が予想され、お子様の健康や安全について大変ご心配をおかけしました。大会そのものは警報発令時や荒天等以外は中止とならないとのこと。学校ではたくさんの方がいますが、けがや病気、体調不良、健康不安、その他の事情等で参加できないなど、いろいろな場合が考えられます。また、今年度から、ふるさと教育の一環として、九度山町の歴史ある真田祭り(子ども武者行列)に高学年が参加(学校行事)しています。どちらも学校行事ではありますが、お子様と相談し、保護者の判断に委ねることとなります。お子様の気持ちを大切にしながら、行事への参加についてその都度学校にご相談いただけますようお願いいたします。ご理解のほどよろしくお祈りいたします。

学校生活について

- ・授業参観で、先生に対しての児童の話し方が気になります。楽しそうにしているのはいいのですが。
- ・放課後の学力補充や休み時間などのチャレンジマラソンや縄跳びなど、日々取組がありすぎて、先生も子どもも大変そうに感じます。無理なくやってほしいです。

- 学習の話し方スキルは、各学年の発達段階に応じて、指導しています。教職員と児童との会話について、休み時間には、少しでも話しかけた話し方をすることもあります。授業中と休み時間の話し方の区別の意味を理解できるよう指導していきます。
- 金曜日の放課後実施している学力補充について、今年度は、全員ではなく、必要に応じて少人数で実施しています。少人数で実施することで、個別により丁寧に支援することができます。実施の有無や方法、形態等、見直していきます。
- コロナ禍で数年前から児童の運動量の減少と体力低下が課題となっています。チャレンジマラソンや縄跳びについては、12月1月の約1か月に体力づくりをめざし、取り組んでいます。児童も教員も無理のないよう、工夫しながら進めていきます。

休業中の宿題について

- ・夏休みの宿題等、親が介入しないとできない様な物が多い気がします。家庭科では、コロナも第5類に移行しているので、できるだけ、授業内で完結させていただきたいです。夏休みの宿題もやり方すらわからなかった物が多かったので、子ども自身が理解して宿題を持ち帰るようにしていただけたら、幸いです。

- コロナ禍で調理実習等の実施が難しく、家庭科などの宿題で大変お世話になりました。また、長期休業中の課題等もいつもご協力いただきありがとうございます。丁寧にみていただき、感謝しています。学校では、調べ方や情報収集の仕方・まとめ方などを、いろいろな教科で学習しています。また、休業中の課題についても内容や方法を説明していますが、子どもたちが理解し取り組めるように努めます。また、課題等で、何事も自分の力でできることは素晴らしいですが、小学生のうちは、普段できない自由研究など、興味のあることや調べたいことを保護者の方と一緒に楽しみながら取り組んでいただけたらうれしいです。そして、少しずつ手を離していくと、最後は、自分の力でできるようになっていきます。

いじめについて

- ・「いじめはなくなる」と前提を考えるべきではないかと思えます。
- ・最近いじめの問題が学校で対応する問題に大きくなっているように思います。他のお子さんたちの問題かなど、はじめは感じる部分もありましたが、明日は我が子…と思えば不安になることもあります。当事者同士言い分があると思えますが、早急に解決できるよう願っています。

いじめの定義【いじめ防止対策推進法第2条】

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は、物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの。

いじめの具体的な様態

- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする 等
- ・冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる ・仲間はずれ、無視をされる ・金品をたかられる ・金品・持ち物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする ・パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる 等

- いじめはどの子にも、どの学校でも起こり得る問題です。また、一部の児童だけでなく、どの児童も、いじめをする側、される側にもなり得る問題です。児童一人一人が、心の通う人間関係を構築し、社会性のある大人に育つよう、社会総がかりで継続的に取り組んでいかなければいけません。学校では、保護者、地域住民、関係機関と連携しながら、「いじめを許さない」学校づくりをめざし、未然防止、早期発見・早期対応に努め、いじめの解消に取り組めます。道徳教育・人権教育・体験活動・情報モラルの教育の充実、児童の主体的な活動の推進、安心できる学級づくり、いじめをしない・いじめを見逃さない態度・能力を育てていくよう努めます。
- 「いじめ防止対策推進法」に則り「学校いじめ防止基本方針」（学校HPに掲載）を作成しています。学校では、その方針に基づき、年に3回いじめアンケートを実施しています。書かれた内容について、担任が一人一人丁寧に聞き取りをし、事実確認をしています。「意見の衝突」「仲間同士の悪ふざけ」「わざとなのかどうか」「しかえし」「けんか」「今でも続いているのか」なども確認します。小学生は年齢の幅も大きく、当事者同士の認識の違いや記憶の違いはありますが、どんな理由であっても、そのことで、相手の児童が悲しい気持ちや嫌な気持ちになったことをきちんと受け止め、いじめにつながる行為もしくはいじめだと理解できるようにしています。本来、友達とのめ事は自分たちの力で解決できることが望ましいですが、みんなが納得して解決することが難しいことも多いです。そんなときは、教職員が話を聞き、子どもたちに自分の言動を考えさせながら解決できるように導いていきます。傍観者に対する指導も行います。先入観や一方的な思い込みで判断しないよう複数で対応し、教職員間で情報共有し必要な場合は保護者にも連絡します。特にいじめが疑われる場合は、組織（いじめ問題対策委員会：管理職・教務・生徒指導・養護教諭・当該担任・SC・SSW等）で対応します。
- いじめの情報のキャッチは、いじめアンケートだけでなく、疑われる言動の目撃、児童や保護者の方からの相談や教職員の見取りなどから行っています。気になる情報があるときも、同じように対応し、指導が必要な場合は丁寧に指導を行っています。そして、いじめや気になる友達関係は、教職員間で情報を共有し、学校全体で見守り、経過観察等を行っています。いじめが解決したと思われる場合でも、小さなサインを見逃さず十分に注意を払い、継続して指導をしていきます。
- 全校集会では、人権やいじめについて話す機会を今後も継続していきます。いじめの問題を自分の問題として考えられるよう、また、低学年の児童にも理解しやすいように、いじめにつながる行為の例やいじめのたまごを見つけたら、たまごのうちに退治することの大切さなど、具体的に伝えることを心がけています。また、各学級では、道徳だけでなく、他の授業や学級活動等を通して、自己肯定感や規範意識が向上できる指導をしています。今後も教職員の人権意識の向上に努め、よりよい集団づくりに取り組んでいきます。

アンケートのご協力ありがとうございました。いただきましたご意見を真摯に受け止め、今後の学校改善に役立て取り組んでいきたいと思えます。今後とも学校教育推進にご理解・ご協力をよろしくお願いします。